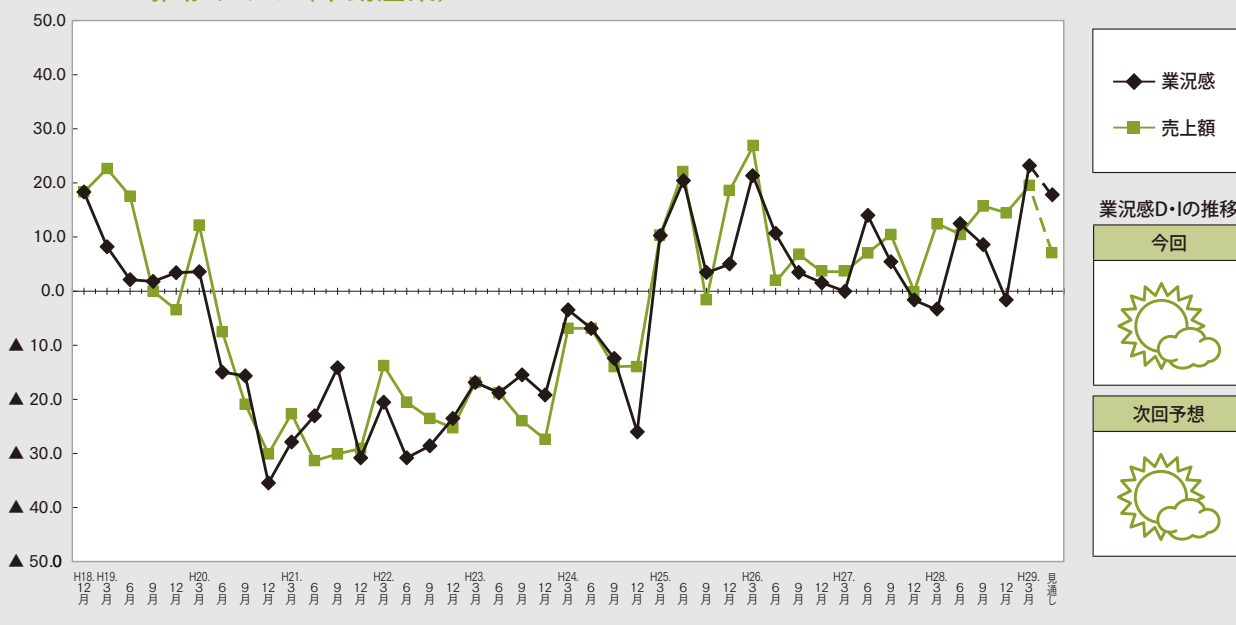


不動産業

Real estate industry

業況感大幅に改善

D・I 推移グラフ (不動産業)



1 今期 (平成29年1 - 3月期)

不動産業の今期業況感は23.2 (前期▲1.8)となり、前期からD I値が25.0ポイントもの大幅な改善となった。前期D I値がマイナスに転じていたが3期ぶりに改善した。

会社員等の年度末の異動や新入生・新社会人の新生活等により、不動産業にとって忙しい時期であったことから、売上額、収益ともに前期比でそれぞれ5.0ポイント、6.7ポイント改善し、資金繰りも8.8ポイント改善したことが、全体の業況感を引き上げたものと考えられる。また、在庫の過剰感が7期ぶりに解消された。

2 来期の予想 (平成29年4 - 6月期)

来期は、業況感が今期に比べ、D I値で5.3ポイント低下の予想。売上額、収益もそれぞれ12.3ポイントのマイナス予想であるが、D I値プラスは維持できる見込みである。在庫に不足感が予想されるものの、資金繰りも改善予想であり、全体として無難に推移する見込みである。

DI値の推移 (過去1年と3ヶ月後の予想)

	H28. 3月期	H28. 6月期	H28. 9月期	H28. 12月期	H29. 3月期	来期見込み
業況感	▲ 3.5	12.3	8.9	▲ 1.8	23.2	17.9
売上額	12.3	10.5	15.8	14.3	19.3	7.0
収益	15.8	7.0	14.0	16.1	22.8	10.5
販売価格	1.8	▲ 1.8	▲ 1.8	5.4	▲ 3.5	▲ 3.5
仕入価格	3.5	▲ 5.3	▲ 3.5	0.0	▲ 3.5	1.8
在庫	▲ 5.3	▲ 3.5	▲ 5.3	▲ 10.7	3.5	5.3
資金繰り	▲ 3.5	7.1	12.3	▲ 1.8	7.0	8.8
人手	3.5	1.8	5.3	1.8	7.0	▲ 1.8
設備状況	-	-	-	-	-	-

業況調査メモ

北九州市小倉では、縮退エリアとなっていた市街地の古いビルや家屋を生かして、若い人たちの起業や雇用の場、住まいを新たにつくり、エリアの再生・活性化を図るリノベーションまちづくりが活発に行われている。市内の遊休不動産を活用したエリアマネジメントを事業内容とする株式会社北九州家守舎が中心となって取り組んでいるのだ。鹿児島県内でも少子高齢化、人口減少に伴い、空き家、空きビル、遊休地が増加している。こうした遊休不動産を、若い人たちの感性を生かして再生・活用し、さらに点から線、面へと広がっていくマネジメントを得意とする不動産業者の出現が待たれる。